防災研修事業年間カリキュラム

様式３－２

No.	対象	課程名	年間実施回数	年間実施回数内訳及び実施方法				研修時間	講師	目標	主な内容	特に重視する内容・ポイントなど
				消防学校	出前講座	オンライン	ハイブリッド型					
記載例	県民	防災基礎講座	3	1	1	1		消防学校、出前講座：半日 オンライン：１時間３０分	防災士　〇〇氏	平時の備えや災害時の心構えのポイント、災害から自分と自分の家族を守る方法など、防災に関する基礎的な知識を習得すること。	・防災の基本的考え方 ・平時の備え（家庭での備え、地域の災害リスクの確認、マイタイムラインなど） ・災害時の心得（避難行動、帰宅困難者など）	・備蓄品や持出品についてイメージしやすいよう、実物を見せながら講義する。 ・避難行動について参加者同士で意見交換を行うワークショップを行う。 ・知識を定着させるため、演習の最後に簡単な確認テストを行う。
記載例	自主防災組織	地域防災リーダー基礎コース	4	1	2	1		半日	NPO法人〇〇会 〇〇氏	自主防災組織の基本的な役割の理解や、活動に必要な基礎知識について理解すること。	・防災の基礎 ・自主防災組織の役割 ・平時の備え（備蓄、啓発等）と災害時の活動	・実際に自主防災組織の活動を行っている方を講師として招き、実際の活動や経験をもとにした講話を行う。
記載例	企業（事業者）	企業防災基礎講座	2				2	半日	株式会社〇〇 防災担当	事業所の防災担当者等が、災害に対する備えや災害時の対応、帰宅困難対策について学び、その知識が事業所内で共有されること。	・防災の基本的考え方 ・職場が所在する地域の災害リスクの正しい理解 ・従業員や来所者の帰宅困難対策	・東日本大震災や令和元年台風時に企業の防災担当をしていた方を講師として招き、体験談をお話しいただく。 ・災害により従業員や顧客が帰宅困難となる事態を想定したワークショップを行う。 ・県内全域で視聴できるようハイブリッド型研修で行う。
記載例	行政	市町村防災担当職員初任者研修	2	2				半日	〇〇大学教授	防災担当職員として備えるべき基礎的な知識や心構えについて学び、今後の業務に生かされること。	・災害法制と千葉県の防災政策（県の災害配備体制、自助・共助の推進など） ・防災担当職員としての基礎知識・心構え ・ワークショップ（ＨＵＧ又はＤＩＧなど）	・防災担当職員として持つべき心構えや基礎的な知識について、実際に役所での勤務経験がある大学教授を招きお話いただく。 ・参加者をグループ分けし、避難所運営ゲーム（HUG）を行い、避難所運営を模擬体験するとともに、他の市町村職員との交流を図る。
1												
2												
3												
4												
5												

No.	対象	課程名	年間実施回数	年間実施回数内訳及び実施方法				研修時間	講師	目標	主な内容	特に重視する内容・ポイントなど
				消防学校	出前講座	オンライン	ハイブリッド型					
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
16												
17												

No.	対象	課程名	年間実施回数	年間実施回数内訳及び実施方法				研修時間	講師	目標	主な内容	特に重視する内容・ポイントなど
				消防学校	出前講座	オンライン	ハイブリッド型					
18												
19												
20												
21												
22												
23												
24												
25												
26												
27												
28												
29												

No.	対象	課程名	年間実施回数	年間実施回数内訳及び実施方法				研修時間	講師	目標	主な内容	特に重視する内容・ポイントなど
				消防学校	出前講座	オンライン	ハイブリッド型					
30												
合計			0	0	0	0	0					
					0							

※合計60回程度となるよう企画すること。